

梅窓院通信

No.32 2007/06/01 施餓鬼号

てんえつ
京都の大本山清浄華院御忌会で典調を務める中島
真成住職（写真中央右）。唱讃導師を務めた僧侶が
この役を務める。

青山

AOYAMA



住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



早いもので今年も衣替えの時期を迎えましたが、みなさんお元気で過ごしのことと存じます。

さて、前号の挨拶で春彼岸のライブ演奏の話をしました。若い人にもお寺に足を運んで欲しいと企画したコンサートに、二十代のミュージシャンはもちろん、その友人や音楽関係者、外国の方が会場の観音堂に集い、予想を上回る盛会、そして普段の梅窓院とは一味違う風景となりました。また、お彼岸のお墓参りの方も、今までにないほど大勢の方がみえられました。

ということでの秋彼岸には、今度は祖師堂で第二回「お彼岸ライブ イン 青山」を開催します。お参りの方にも聞きやすいようにしますので、どうぞお楽しみに。

さて、前号ではお伝えできなかったのですが、梅窓院の先々代、先代とも関係の深かった浄土宗大本山清浄華院のご法主、

台下が新年早々に急逝（遷化）され、新たに京都文教短期大学の学長で、元佛教学学長の 先生が法灯を継がれました。その新法主での初の御忌大会で私が典調というお役を勤めた時の写真を今号の表紙にさせていただきます。

梅窓院を囲む人々には参議院議員であり、京都の船井郡園部町の教傳寺ご住職の、上人にご登場いただきました。普段聞けない面白いお話を聞かせていただきました。是非お読み下さい。

死

ともに迎え来る者
— 私の死 —

長野市十念寺 副住職

袖山 榮輝 上人

冒頭から私事で恐縮だが、先だつて、四年半前に亡くなつた実父の夢を見た。

どこであるのか海岸線を見下ろしながら走る列車に、私と妹と母と親父が乗っている。多分「海がきれい」とか「花が咲いてるよ」とか話していたのだろう。

列車はやがて樹々が茂る山腹へと進み、終着駅らしき駅舎に着いた。どうやら神社やお寺の参道が延びている。

心臓を病んでいた親父は坂道をゆつくりとしか登れない。参道を登り始めた私たちは何度も何度も親父の方を振り返り、立ち止まつては待つていたのだけれども、その距離は縮まらない。やがて気が付くと親父の姿は消えてしまつてた。そうだ、もう死んだんだと思つて、そこで目が醒めた。

翌朝、母親に電話した。「いきなり何なんだけど、親父の誕生日って今日だったっけ？」

「なに言つてんの。二週間前よ。それがどうしたの」

「いや、今朝、親父の夢見てさ。今日あたり誕生日だったように憶えていたんで電話したの。そうか、間違えてたかあ」

「それでも、思い出してくれてありがとうね。お父さん、喜んでるよ」

父親の誕生日を間違えて憶えていたとは間抜けだったが、息子の夢の中に出てくれたのは、今日が誕生日だったからに違いないと、その朝は本気でそう思つていたかつた。それを確かめたくて母に電話したのである。

ところで浄土宗の教えで一番ありがたいと思えるのは、私たちの臨終に阿弥陀さまがわざわざ極楽世界からお迎えに来てくださることだろう。

阿弥陀さまのお姿を拝すればこそ、命尽きんとする時に至つても心乱れることなく、安心して死を受け容れることができる。極楽浄土へと勇んで往生

させてただけるのである。

とはいえ、これは教えについての模範的な受け止め方。なにしろ阿弥陀さまと初めてお会いするのが臨終の時なのだ。緊張もするだろうし、戸惑いもあるだろうと思うのだ。

もちろん臨終にお迎えを頂戴したいとは、切にそう願っている。願つてはいるのだけれども、実際その時になつて、本当に自分の死を受け容れられるのか、いささか自信がない。

そこで、あらためて経典をひもといてみると、阿弥陀さまはお一人でお迎えに来るわけではない。極楽の聖者たちに囲まれながら来て下さるのである。

とりわけ『観無量寿経』という経典によれば、菩薩道を歩んできた者のためには極楽の菩薩たちと、僧侶のためには極楽の僧侶たちとともに迎え下さるというのである。

少々の拡大解釈が許されるならば、阿弥陀さまは私たちが生前ご縁のあつた方々に取り囲まれながらお迎えに来て下さる。死への旅立ちに身構える私たちをほぐして下さるのである。

ならば、私の臨終の場合、亡き実父もその中にいてくれるだろう。もし、そこで「ご苦労だったね」と肩を叩かれたならば、その時初めて、私は私の死を受け容れると思うのだ。

(浄土宗総合研究所研究員)

増上寺御忌詠唱奉納大会 4月3日 (火)



梅窓院詠唱会の皆様が詠唱とお舞を奉納されました。

二・三・四月の 行事報告

平成19年 春彼岸法要 3月21日 (水)



お彼岸ライブには4組のミュージシャンが登場した。



入船亭扇好師匠による一席。観音堂が笑いに包まれました。



趣向がこらされた演出に大盛況となりました。

第40回 念仏と法話の会 2月26日 (月)

ご先祖様に感謝と供養を

お盆 7月13日 (金)

う ら ぼん え

盂蘭盆会法要——午前10時30分～ 本堂

お盆とは

お盆は正式には「盂蘭盆」といいます。その昔、お釈迦さまの高弟である目連尊者が、教えに従い亡き母を供養し、餓鬼道から救った故事に由来します。そしてご先祖さまへの感謝供養する心と融合し、今日のお盆があります。

俺が俺がの「我」を捨てて、おかげおかげの「げ」で歩め、という言葉があります。お盆には、生かされている命に手を合わせ、穏やかな心で暮らしたいものです。どうぞご家族皆さままでお参り下さい。

盂蘭盆会回向お申込み方法

【回向紙】

御回向料 一枚 三千円

- ・同封の回向紙にご記入の上、受付へお持ち下さい。
- ・一枚につき、一霊のご回向をします。

【御塔婆】

御回向料 一本 七千円

- ・お塔婆をご希望の方は、受付までご連絡下さい。

三界万霊に施し福德延寿を願う

お施餓鬼 7月21日 (土)

せ が き え

施餓鬼会法要 (塔婆回向)——午前9時～ 祖師堂

※塔婆のお申込み状況により、時間を変更する場合があります。

別時念仏会／半斎供養——午前11時～ 本堂

お斎 (お食事を頂きます)——午前12時～ 観音堂

御説教——午後1時～ 祖師堂

講師 宮城教区 浄念寺住職 高橋 清海 上人

大施餓鬼会法要——午後2時～ 祖師堂

※長時間に渡る法要の為、途中からの参加も可能です。

※塔婆回向 (お名前の読み上げ) は午前九時からの法要で行います。

※全ての法要終了後にお塔婆をお渡し致します。

お施餓鬼 (おせがき) とは

施餓鬼とは、無数の餓鬼を供養した功德により、餓鬼道を免れ延命することが出来たお釈迦さまの高弟、阿難尊者の説話に由来します。

施餓鬼会では、特定の霊に対してではなく三界 (迷いに溢れる三つの世界) に生きる、萬霊 (供養に恵まれない全ての霊) に飲食を施し、ご先祖さまとともにご供養を致します。

ご家族皆さままでお参り頂き、自身の功德を一切全ての霊に振り向け、福德延寿を願いましょう。

「せがき子どもひろば」のご案内

本年もお施餓鬼の当日、梅窓院内に「子どもひろば」を設けます。保育士による、かみしばいや絵本の朗読などを予定しております。是非この機会に、お子さまと一緒に参りください。

※お問い合わせは青山文化村まで。

TEL 03-3404-8588

施餓鬼塔婆お申込み方法

【御塔婆】

御回向料 一本 一万円

- ・同封のハガキにご記入の上七月七日必着でお申込み下さい。
- ・施餓鬼会法要に参加される方は、出席人数も合わせてご記入下さい。(当日、出席人数分のお弁当をご用意致します。)
- ・御回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払頂くか、受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニでのお支払いは出来ません。)

両国といえば相撲の町ですが、回向院の境内で
勸進相撲をとったのがその始まりだったとか。
今回はそんな両国の中心にあるお寺を訪れました。



▲回向院の山門

ぶらり門前膝栗毛 その7

回向院

浄土宗 諸宗山

JR総武線 両国駅／都営大江戸線 両国駅



▲本堂入口。ちょうど「両国にぎわい春祭り」開催中だったので沢山の人が訪れていました。



回向院とは…

回向院は、今からおよそ350年前の明暦3年（1657年）に開創されました。この年、江戸には明暦の大火があり、この災害により亡くなられた人々の多くは、身元や身寄りのわからない人々でした。当時の將軍家綱は、この無縁の人々の亡骸を手厚く葬るようにと回向院の現在地に土地を与え、「万人塚」という墳墓を設けました。このとき、お念仏を行じる御堂が建てられたのが回向院の始まりです。

その後も、数々の災害などで横死した無縁仏を葬る無縁寺として、つねに庶民と共に歩んできたお寺です。

ぶらり作文

久しぶりの「ぶらり旅」今回は両国、回向院。モダンな回向院の山門を心ときめかせながらくぐる。

両国といえば相撲。俗に「振袖火事」ともいわれる明暦三年の大火の無縁の方々の亡骸を葬る「万人塚」という墳墓を幕府の命で築いたのが回向院のはじまりとのことであるが、回向院の相撲との深いかわりと、「開帳寺」として庶民の信仰をあつめ隆盛をさわめたお寺の歴史を紙芝居風に解説していただき興味深く聞きました。

両国は「にぎわい春祭り」中で、回向院もその会場になっており、大入満員の中、増上寺雅楽会による雅楽演奏、相撲甚句の名調子にうつり。

お茶のお手前を頂いた後、境内をひとめぐり。天災地災による無縁供養塔が数多く現存していることの外に文学、芸能などさまざまな分野で活躍した有縁の著名人の墓も少なからずありました。人形浄瑠璃の初世竹本義太夫、歌舞伎の二世中村勘三郎の墓、中でも義賊・鼠小僧次郎吉の墓は庶民に最もしなまれてきた墓の一つでしょう。又境内にはさまざまな動物の慰霊碑、供養碑があります。昨今のペットブームとも相まってか、おびただしい数の塔婆供養塔に目をみはるものがありました。

さて、残念ながら雨の為、たのしみしていた「ちゃんこミュージアム」は開催されませんでしたが、両国に来たからにはと、元大関霧島（現陸奥親方）のお店「ちゃんこ霧島」に行つて、ちゃんこ料理本場の味に舌つつみ。両国駅西口すぐという道のりもあつてか、一階から八階迄大にぎわいで、おいしかったです。「私はピアノ」のヒット曲もある高田みずえさんも、いいおかみさんやつているそうですし、お幸せでしょうと思つたことでした。

最後は相撲博物館に行き、国技館の中迄入らせていただき、本物の土俵も見るこ

とが出来、大満足の一日でした。
()



▲▶ 大名屋敷から千両箱を盗んでは貧しい町民を救ったと伝えられる鼠小僧次郎吉は、やがて信仰されるようになり手厚く回向院に葬られました。鼠小僧の墓石を削りお守りにすると願いが叶うのだとか。写真の白い墓石は削って持ち帰ることができる前立ち墓。



▲かつては露天に安置された濡仏だったという御本尊阿弥陀如来の御前にて。背面には千体地藏尊が安置され、まさに荘厳そのものです。
左から さん・ 住職・ さん・ さん。



▲相撲とのつながりを示す象徴となっている「力塚」には今でも若い力士たちが力を授かるよう祈願に訪れます。



▲万霊供養塚の上に立つ聖観音。



▲徳川四代將軍家綱公の愛馬を供養すべく、明暦三年に建てられた馬頭観音堂を基に現在でも、家族の一員だったペットなどの諸動物の供養を行っています。安らかに眠って欲しいと思う気持ちは人も動物も変わりません。



▲両国といえば国技館。中はとても広くて土俵が小さく感じました。
◀力士名などの入ったのぼりが気分を盛り上げます。

「ぶらり門前膝栗毛」
お檀家編集員募集中！

私たちと一緒に、お寺巡りをしてくださる方を募集しています。沢山のご応募お待ちしております。

お問い合わせ
青山文化村
☎〇三—三四〇四—八五八八

春雨や濡れず鼠の白き粉

春深し無縁供養の回向院

※久しぶりのぶらり門前膝栗毛に、お檀家編集員から俳句と原稿をお寄せいただきました。昨年からはまった、両国にぎわい春祭に合わせたの楽しいぶらり散歩となりました。



梅窓院を囲む人々

今回は梅窓院の落慶式からのご縁を結んだ京都・教傳寺の住職であり、参議院議員の上人にご登場いただきました。

◆本日はお忙しい中、ありがとうございます。早速ですが、6年前の初当選から浄土宗の全国のお寺、およそ七千か寺をお参り、回られていると聞きましたか？

はい、今六千か寺を越えたところです。

◆六千ですか。それだけ回られたのは浄土宗のお坊さんでもないかと思いますが、全国津々浦々、大変ですね。

北は北海道から南は沖縄、それに離島、と回るのが時間はかかります。でも、いろいろなお寺をお参りさせてもらったのは有難いことです。

◆印象的なお寺は。

うーん、印象的と言っていいのか、北陸の山の中にある廃寺同然のお寺とかが、心に残っていますね。住職がいないぐらいなら良くて、誰もいない、あるいは伽藍がない、中には境内地がどこだかわからないというお寺もある。

これは淋しく、悲しかった。お寺がなくなるということは、その地域の浄土宗信者の拠り所がなくなるだけでなく、浄土宗の教えが広がらないということです。これは浄土宗僧侶として辛い。

◆なるほど、東京にいとそういうことに気づきませんが、お寺がなくなるということは大変なことですね。

そうですね。東京のお寺さんは恵まれてます。

◆お寺を回られて他に気づかれたことは？

お寺に住職がいない（笑）。突然の訪問ですから無理ないのかもしれませんが、住職がいらっしゃったのはおよそ三割弱ですかね。

◆みなさんお勤めに出たりされているのですかね。

詳しくはわかりませんが、全国を回って思ったのはお寺の布施収入だけで生活できるお寺の方が少ないということです。

◆そういう中でこの梅窓院の印象は？

いや、すごいスペース、そしてパワーのあるお寺だと思いました。

梅窓院さんをはじめ、東京のお寺さんでもお勤めされているお寺はありますが、経済的には恵まれているのは事実でしょう。ただ、その分、しっかり仏教行事をされたり、色々な行事もされている。どのお寺もその置かれた環境の中でそれぞれが一所懸命されている。

◆議員の仲間から、お坊さん議員というのはどう見られているのでしょうか？

特に教育の問題や家庭の問題については、「君、仏教の教えを前面に押し出して、どんどんやりなさい」と言われますね。

◆さん以外に僧侶の議員はいらっしゃるのですか？

いません。ただ、参議院自民党全日本仏教議員連盟という会があり、会員が七十名ぐらいいます。どういう会かといいますと、仏教関係の皆様にも支援を受けておられる先生方ということです。

そういう先生方はやはり他の先生たちよりも仏教の教えの良さを知っておられ、応援してくれますね。

◆なるほど。最後になりますが、さんの政治家としての抱負を教えてください。

二つあります。

ひとつは宗教を守ること。そしてもう一つは宗教法人を守ること。参議院の比例代表は業界や仲間の声を代表するためのものであり、仏教徒、浄土宗僧侶の私がやるべきことはこの二つ。

ですから、先ほどの廃寺のようなお寺をみると本当に胸が痛むのです。私は世の中がおかしくなったのは宗教軽視だと思っていますから、宗教を守り、信仰心を育てることに専心したいと思います。

◆本日はお忙しい中、ありがとうございました。



参議院議員会館での取材となり、応接室での住職との記念写真。

プロフィール

昭和26年京都府生まれ。京都園部町・教傳寺住職、参議院議員。鳥取大学、佛教大学、広島大学大学院に学ぶ。京都府立高校などで教鞭を執る。園部町議会議員を経て平成13年、自由民主党から比例代表で選出。著書、論文多数。

体が涼しくなる
緑豆茶

食は命

武鈴子
食養研究家

第二十七回

10年ほど前、中国から薬膳の先生をお招きして1年間共同研究を行いました。その時の話です。薬膳の先生が突然緑豆を炊き始めたのです。間もなく緑豆の甘い香りが部屋中に漂い始めました。先生に「どうされたのですか?」と尋ねたら、胸の辺りをさすりながら「ここが熱いです。だから緑豆のご飯を作っています。」とのお答え。米粒の入らない緑豆100%のご飯です。先生の症状は胸焼けでした。それを治すために、体の熱を冷ます働きが高い緑豆で改善しようとしたのです。

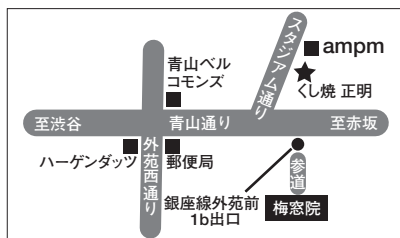
中国では夏場は、ほんのり甘い緑豆茶を作っておいて、のどが渴いた時、水代わりに飲みます。緑豆はご存知のように、モヤシの原料として日本でも昔から親しまれています。緑豆モヤシはサツとゆでて、カレー粉少々を加えた甘酢で和え、冷やしておいて食べると、口の中がサッパリとして食欲のない時でも大変おいしいものです。

暑い夏は冷たい飲料水よりも、緑豆茶などいかがでしょうか。

緑豆茶

材 料：緑豆 100g、きび砂糖 70～90g、水 5カップ、塩少々、生姜少々

作り方：①緑豆はよく洗って鍋に入れ、分量の水を加えて豆がやわらかくなるまでアクを取りながら煮る。(40～50分)
②①に砂糖と塩を加え、最後に生姜の絞り汁少々を入れて出来上がり。



営業時間／不定休
16:00～24:00 (L.O.23:30)
住所／東京都港区北青山2-7-24有磯ビル1F
TEL／03-3408-0094
HP／aoyama-seimei.com



カウンターと座敷がある



串7本コース1,600円
10本コース2,200円
正明コース(ストップされるまで)

くし焼
正明

青山散歩道

くし焼 正明 SEIMEI

種類が豊富なくし焼屋

スタジアム通り沿いにある年中無休のお店。

店長自らが貴重な珍しい食材を仕入れている。串焼きメニューは豊富で豚・鳥・牛・野菜と27種類もある。迷ったら、おまかせコース。お客さんのペースを見ながら焼いてくれます。中でもお勧めは、せせり(鳥の首肉)で、とて



もジュシーな一品です。秘伝のタレがかかった大盛りのキャベツはサービスで、おかわり自由なのが嬉しいところ。店の名前(正明)にもなっている店長は、明るく、料理文化にも詳しい。料理だけでなく店長の話を聞くのも楽しみのひとつです。

青山俳壇

選者『ウェブ俳句通信』編集長

大崎紀夫

◎特選

○ふとかげる二月の雲の淡きかな

(評)「淡きかな」が効いていますね。二月の寒さ、それにもうすぐ春が来る、というふたつの心が微妙に表現されているように思われます。

◎佳作

○露座仏の御手にきらり薄氷

○訪へば句碑また句碑や春の寺

○川岸にゆらく小舟や猫柳

○松の芯空に向ひて競ひ立ち

○身に積める残雪溶かす梅小鉢

○地下鉄の階段多し春彼岸

○春爛漫胎でほころぶ小さな手

○ひと枝の櫻の蕾紅ほのと

◎選者詠

○これがその蚤の衾と教えらる

〈フンポイントアドバイス〉

植物の名前には「大ふぐり」「まま子の尻ぬぐい」「へくそかずら」など何とも気の毒な名があります。今回私が詠んだ「蚤の衾」は、花も葉も小さく、その葉はノミの寝床にふさわしいとしたもので、これなどは愛嬌のある名前です。こういう植物あるいは花をうまく句に詠み込むのも俳句を作る楽しみのひとつです。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「夏の季語」でご自由にお詠み下さい。7月16日を締切、9月発送の『秋彼岸号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウェブ編集室
電話03-5368-1870

行事予定

第41回 念仏と法話の会

6月12日(火)

受付開始 午前12時～

別時念仏／法話／茶話会

法話講師 宮城教区 浄念寺住職

高橋 清海 上人



郡上おどり IN 青山

6月23日(土)～24日(日)

物産店 午後2時～8時半

おどり 午後5時～8時半

※最終日は午後8時まで。



毎年、境内から人が溢れるほどの賑わいです。

盂蘭盆会法要

7月13日(金)

午前10時半より 本堂

※詳細は3面をご覧ください。



施餓鬼会法要

7月21日(土)

午前11時より 本堂

※詳細は3面をご覧ください。



墓苑外柵設置工事のお知らせ(第一期工事)

墓苑東側境界塀の上に鳳凰を象った外柵を設置致しました。なお、第二期工事として南側境界塀にも設置を計画しております。※時期未定



平成19年度 仏教講座

協力:東京教区 城西組 教化団

仏・菩薩—その教えと信仰

勝崎 裕彦 先生

香蓮寺住職 大正大学教授

第1回 6月7日(木) 文殊・普

賢菩薩とその信仰

第2回 7月5日(木) 弥勒菩薩とその信仰

第3回 8月2日(木) 大日如来とその信仰



仮名法語『一言芳談』を読む

新井 俊定 先生

天然寺住職

大正大学出版会主管

第2回 7月27日(金) 明遍僧

都のことばを中心に

第3回 9月6日(木) 法然の門弟のことばを中心に



ブータンと幸福論—宗教文化と儀礼—

本林 靖久 先生

真宗大谷派僧侶

大谷大学・佛教大学講師

第2回 6月29日(金) 宗教世

界観と祭礼—円環する時間と空間—

第3回 8月31日(金) 死をふくむ幸福—日

本人の死生観との比較から—



中国の名僧たち

阿川 正貫 先生

浄土寺住職 大正大学講師

第3回 8月8日(水) 法顯



●全講座 午後6時～8時

●受講料 無料 ●場 所 観音堂

発行/梅窓院
発行日/平成19年6月1日
発行人/中島 真成
編集/青山文化村
住所/〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話/03-3404-8588
FAX/03-3404-8446
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail/kouhoubu@baisouin.or.jp
題字/浄土門主総本山知恩院門跡
第八十六世中村康隆親下

今回久々に「ぶらり門前膝栗毛」が復活しました。いつも同行してくださる皆さんにも喜んで頂けて嬉しいです。これからは由緒あるお寺を巡ってみたいと思いますので、興味のある方はぜひどうぞ参加ください。また、平成十三年より連載してきた袖山榮輝上人の法話が今回で最終回を迎えました。長きに渡り本堂に有難うございました。(石)

編集後記